

～「考え議論する道徳」授業づくりと評価～

①評価について

1 道徳教育における評価の意義

何のために評価するの？

（「第3章 特別の教科道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4）
児童の学習状況や道徳性に係わる成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

【教師】 教師が指導の目標や計画、指導方法の改善、充実に取り組むための資料となるもの。

【児童】 自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくもの。

※指導に生かされ、児童の成長につながる評価でなくてはならない。

指導と評価の一体化

2 評価の基本的な考え方

評価する上で気をつけることって？

- ・数値による評価ではなく、記述式とする。
- ・個々の内容項目ごとではなく、**大きくくりなまとまりを踏まえ評価する。**
- ・他の児童との比較による評価ではなく児童がいかに成長したか、積極的に受け止めて**認め、励ます個人内評価**として行う。
- ・学習活動において児童がより、多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。
- ・発達障害等のある児童が抱える、学習上の困難さの状況を踏まえ適切な配慮を行う。
- ・調査書には記載しない。

・「**大きくくりなまとまりを踏まえ評価**」→学習状況や道徳性に係わる成長の様子を継続的に把握
授業1つ1つを評価することは道徳科の特質から考えて好ましいとは言えないことを述べたものであって、道徳科の授業で顕著な発言があったことを記載してはいけないことを意味しているわけではない。

3 評価の場面の捉え方

どんな場面で評価していけばいいの？

①道徳科の授業

（1単位時間）

- ◇記録の累積として
- ◇子ども向けコメント

②通知表

（学期レベル）

- ◇保護者への通知
- ◇子どもにも向けた内容

③指導要録

（学年レベル）

- ◇成長記録として
- ◇公的文書（公簿）として

具体度 高

ノート・ワークシート → 通知表 → 要録

抽象度 高

※評価の場面を連続的に捉えていく。

特別の教科道徳ふじみ野スタンダード

②評価実践編



じゃあ、実際に評価してみましょう！

1st ステージ 道徳科の授業 エビデンス（評価の根拠）の収集を！！

①見取りの方法例 ポイント※数値による評価はしないとあるため、現在は花丸の評価をせず、コメントで評価しています。

ワークシートやノート

学習前の考え→学習後の考え→これからの自分（子どもの考えの深まりを見取る）

<p>正しい行いとは</p> <p>【学習前】よいことをする、やさしいこと</p> <p>【学習後】人の気持ちをかんがえる ゆう気をだす</p>	<p>ともだちとは</p> <p>【学習前】やさしい、いいことをしてくれる</p> <p>【学習後】わるいことをしたらあやまる ひとりでもゆうきをだしてたすける</p>

視覚化ツールの活用（ネームカード、心情円盤、ホワイトボード、座標軸など）考えの根拠を問う

子どもの発言などの記録（板書の写し撮り、座席表など）書くことを苦手とする児童への見取り

②評価の視点

評価の視点①「物事を多面的・多角的に考えている様子」

- 【例】
- ・ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
 - ・道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
 - ・様々な登場人物の立場で考えている。
 - ・自分の考えと友達の考えを比べて考えている。
 - ・時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
 - ・人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。

など

評価の視点②「道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子」

- 【例】
- ・教材の登場人物に自分を置き換えて考えている。
 - ・教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
 - ・日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。
 - ・自分の生活を見つめ、ふり返りながら考えている。
 - ・自分だったらどうするかなど考えている。

など

実際の通知表への記述は…

ふじみ野スタンダード通知表の評価

- ★前半 「大きくりなまとまりを踏まえた評価」として学期の全体的な学習や成長の様子
- ★後半 様々な授業の見取りの中から、特に顕著な姿が見られた学習の中での児童の思いや考え

児童 A

教材の登場人物の行動や生き方について、友達と熱心に議論していました。正義とは、ただ正しい判断ができるだけではないということ、行動することに意味があるということに気づき、A君の考えから話合いが深まりました。

児童 B

教材の登場人物の行動や生き方について友達の考えを聞き、自分なりの答えを見つけようとする姿がありました。自分を犠牲にしてでも他の人を救う主人公の気持ちに共感しながらも、自分のことも大切にしながらそれ以上に他の人のことが考えられる自分になりたいと考えを深めていました。

3rd ステージ 要録

1 学期通知表

教材の登場人物の行動や生き方について、友達と熱心に議論していました。正義とは、ただ正しい判断ができるだけではないということ、行動することに意味があるということに気づき、A君の考えから話合いが深まりました。

2 学期通知表

時に迷う人間の弱い部分も理解しつつ、人としての正しい行いやより望ましい生き方について真剣に考えている姿が見られました。決まりについて考えた学習では、決まりを守ることによってみんなが気持ちよく、楽しく暮らすことができ、みんなの幸せが自分自分の幸せにつながるという自分なりの答えを見つけました。

3 学期通知表

自由について、自由とは何でもしていいこと、自分勝手なことだという考えでいました。しかし、友達の考えを聞きながら話合いをしていく中で、自由とは周りの人のことも考えた上での自由だということに気づき、自由と自分勝手との違いについて考えを深めることができました。

要録

道徳科の教材で学びながら、登場人物の行動や生き方について熱心に議論を交わしていた。時に迷う人間の弱い部分も理解しつつ、人としての正しい行いやより望ましい生き方について考えを深められるようになった。

参考資料 ・「特別の教科」の指導方法・評価等について（報告）

（平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）

- ・道徳教育 2017年7月号
- ・埼玉県小学校教育課程指導・評価資料（道徳）